

## ～輝きの子育て～

### 子どもの前に謙虚な親でありたい

二年生のりょうすけ君から、「このごろお母さんは、いいお母さんになったね」と言われて、お母さんのA子さんはびっくりしました。

「どうして？」と聞き返すと、「怒らなくなったもの」という返事。

「怒られるの、いや？」と言うと、「いやだよ。かえってやる気がしなくなっちゃうもん」。

A子さんは、自分の努力が実を結び始めたことを感じて、思わずにっこり。

そして、「りょうすけが、よい子になったからですよ」と言いました。

ところが、りょうすけ君は「ぼくはいい子になった感じがしないよ。前と同じだよ」と言う。

「そうかもしれないね。お母さんは、りょうすけがよい子に思えるようになったのだから」

「どんな勉強をしたの？」

「子どもの心について書いてある本を読んだの」

「どんなことが書いてあったの？」

「いたずらをしたり、親に向かっていろいろと文句を言う子がいい子なんだって」

「じゃあ、ぼくはいい子なんだね。お母さんの言うことを聞かずに、文句ばかり言っているんだから」

「そう。お母さんにもたくさんよくない点があるから、りょうすけも文句を言いたくなるよね。お母さんはそのことに気がついたの。だから、もし、お母さんがおかしいことを言ったら、注意してちょうだいね」

子どもから「お母さん」「お父さん」と呼ばれるようになると、ついいばりたくなってしまふ親たちが多いのです。しかも、育ててやっているのだ～という傲慢な気持ちがのさばり始めると、子どもを自分の思いのままに支配したくなってしまいます。そして、自分の言うことを聞かないと言って、子どもを叱ったりたたいたりする親になりさがってしまいます。

そうなったら、もう一度、自分の人格について反省する心のゆとりをもってほしいのです。それができると、欲張りであったり、他人をねたんだり、他人の悪口を言いたくなったり～決して子どもたちには知られたくない、いろいろなよくない気持が動いていることに気づくでしょう。子どもの前に、立派な人格のもち主だといばってみせることのできない自分に気づくでしょう。

その点を思い当たって、子どもの前に謙虚になってほしいのです。

～続『心の基地は』おかあさん～ 平井 信義 氏 より

片野 英子